opusdei.org

黙想:洗礼者聖ヨハ ネの誕生(6月24日)

黙想のテーマ:「神は一人ひとりを選ぶ」「イエスのために道を備える」「使徒職における謙遜」

2025/06/23

神は一人ひとりを選ぶ

イエスのために道を備える

使徒職における謙遜

教会では通常、聖人が天に召された 日を記念し、キリスト教の初期に は、その多くが殉教した日と重なっ ていました。しかし、洗礼者聖ヨハ ネの祝日は、教会の最初の数世紀以 来ユニークな地位を占めており、イ エスの6ヶ月前の彼の誕生も祝われ ています。 教会は聖書を通して、洗 礼者が母の胎内から聖霊に満たされ ていたことを知っていました(ルカ 1・15参照)。マリアが、主がすでに 胎内におられる状態で、いとこの聖 エリザベトを訪ねたときのことで す。

今日の福音では、洗礼者ヨハネの誕生と命名について書かれていますが、この出来事は、それらに先立つ神の計画について考えるよう私たちを招いています。「主は母の胎にあるわたしを呼び、母の腹にあるわたしの名を呼ばれた」(イザヤ49・1)。預言者イザヤのこの言葉は、人間存在の最も深い現実のひとつを

表しています。私たちは偶然にこの 地上に現れたわけではなく、無名で ほとんど価値を持たない「ある生物 の種の一個体」でもありません。私 たちが生まれてくるのは、神から呼 ばれたからであり、幸福と使命を約 束する選びを受けたからなのです。 神は私たち個人の名を呼ばれ、私た ちが唯一無二の存在であることを望 まれました。「あなたは、わたしの 内臓を造り、母の胎内にわたしを組 み立ててくださった。わたしはあな たに感謝をささげる。わたしは恐ろ しい力によって、驚くべきもの造り 上げられている | (詩編139・ 13-14) 。

「神はあなたに何かを期待しています。神はあなたから何かを求めています。あなたがいれば、世界は変わることができるのだと。事実、あなた方が最高のものを提供しない限り、世界は決して変わることはないのです。これは挑戦です」[1]。聖ホ

セマリアは言っています。私たちの 人生の意味を照らしてくれる神から の光を受けるためには、「愛する心 を持たねばなりません。自分で自分 を救うことはできないことを謙遜に 認め、ペトロと共に『主よ、誰のと ころへ行きましょうか。あなたは永 遠の命の言葉を持っておられます。 あなたこそ神の聖者であると、わた したちは信じ、また知っています と言わなければならないのです。も し、このようにできるならば、そし て神の呼びかけを心から受け入れる ことができるならば、決して闇を歩 くことはないのだと確信をもって言 い切ることができるのです。あたか も嵐が荒れ狂うはるか上空に太陽が 燦然と輝いているように、自己の惨 めさや欠点を超えて、神の光が頭上 高く輝いているからなのですした。

「幼子よ、お前はいと高き方の預言 者と呼ばれる。主に先立って行き、 その道を整え(る) | (ルカ・ 76)。ザカリアによって語られたこ の言葉は、アレルヤ唱でとなえられ ますが、召命と使命の間の切っても 切れない結びつきを明らかにしてい ます。ヨハネの召命の偉大さは、そ の使命の唯一無二の重要性にあるか らです。「最も偉大な人は、キリス トが人以上であったことを証しする ために遣わされました | ぽと聖アウ グスティヌスは言っています。さら にオリゲネスは、今日まで続く洗礼 者の召命のもう一つの側面を説明し ています。「ヨハネの神秘は、今日 の世界においても成就しています。 キリストを信じるように運命づけら れた人は誰でも、まずヨハネの霊と 力を魂に受けて、『準備の出来た民 を主のために用意』(ルカ1・17) し、『曲がった道はまっすぐに、で こぼこの道は平らに』 (ルカ3・5) し、人間の心の荒れを整えなければ なりません。 当時だけでなく、今日でも、ヨハネの霊と力は、私たちの主であり救い主の到来に先立つのです | [2][。

すべてのキリスト者は、洗礼者ヨハ ネの使命を引き継ぎ、キリストとの 出会いのために人々を準備するよう 召されています。 聖ホセマリアはこ う書いています。「洗礼者ヨハネの 行いはなんと美しいことでしょう! なんと清らかで、高貴で、無欲なの でしょう!彼は真に主の道を整えま した。彼の弟子たちは、キリストの ことを話に聞いて、知っているだけ でした。そして、彼は弟子たちに師 と対話するように勧め、師をよく見 つめ、師を知るように促し、キリス トの驚くべき業を賞賛する機会を与 えたのですしい。洗礼者聖ヨハネの 生涯は、彼が説いた回心のメッセー ジにふさわしく、節制と償いに満ち たものでした。彼の言葉は神の真理 を大胆に告げるものであり、彼は死

に至るまでそれを証ししました。彼のように私たちもまた、自分が生活している場所にキリストを連れています。ですからこれでいます。ですからいる弟子たちのように、キリのちに満たされて、回くたちも同じようにするよう招ぎましょう。

ヨハネがその生涯を終えようとした とき、彼は言いました。「わたし 何者だと思っているのか。わたし は、あなたたちが期待しているよの な者ではない。その方はわたしなそ から来られるが、わたしはその足い 履物をお脱がせする値打ちもない」 (使徒言行録13·25)。 洗礼者聖 いネは謙遜と高潔な意思の模範で す。 彼は決して自分の光で輝こうと せず、目立つことや個人的な利益を

得るために自分の召命を利用しよう としませんでした。「天から与えら れなければ、人は何も受けることが できない| (ヨハネ3・27)。彼は、 後に続く者が減ることを心配する弟 子たちに告げます。「わたしは喜び で満たされている。あの方は栄え、 わたしは衰えなければならない」 (ヨハネ3・29-30)。使徒職と心の 回心は神がされることであり、私た ちは粗末な協力者です。 神は実りと 時の所有者です。 聖アウグスティヌ スの言葉を借りれば、ヨハネは常に 「声でしたが、主は初めにすでに存 在した言葉 | だったと自覚していま した。「ヨハネは過ぎ去った声で あったが、キリストは初めから永遠 の言葉でしたしている。

使徒としての私たちの人生においても、キリストは成長し、私たちは衰えなければなりません。そのためには、聖ホセマリアが言ったように、深い謙遜が必要です。「あなた方は

皆、謙虚であろうとしていることで しょう。そうすれば、人生における 多くの悩みを避けることができ、葉 の茂った木のようになるでしょう。 しかし、葉を見せびらかし、果実が むなしく、甘い果肉が熟しておらず 重さがない果実はだめです。木の枝 が上を向いているのは、虚栄心があ るからです!これとは対照的に、果 実が熟し、果肉がしっかりしてお り、先に述べたように果肉が甘く口 に心地よいなら、枝は謙虚さをもっ て下を向くのです…。母なる聖マリ アにお願いしましょう。 私は、聖母 に捧げる魅惑的な替辞のように、こ の叫びをあなたの唇に刻んでほしい

と願ってきました。 Ancilla

Domini!」『主のはしため、と。

- [1] フランシスコ、ポーランドでの ワールドユースデー演説、2016年7 月30日。
- [2] 聖ホセマリア『知識の香』 45 番。
- [3] 聖アウグスティヌス、説教289。
- [4] オリゲネス、聖ルカに関する説 教、4。
- [5] 聖ホセマリア、手紙4、21番。
- [6] 聖アウグスティヌス、説教293。
- [7] 聖ホセマリア、家族の集まりでのメモ、1972年12月27日。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/mokusou-senreisha-sei-yohane-tanjyou-art/ (2025/11/21)